

一般入学試験（後期日程）

全学 部

英語

(P.196)

【出題の意図・ねらい】

①は基本的な文法力を問う問題であり、高校で学習した英文法の知識が身についているかどうかを確認するねらいがあります。②は単語や熟語の基礎的な知識を問う問題です。③は語を並べ替えて文を作る問題で、基礎的な英作文の力を問う問題です。④は会話文の穴埋め問題で、文脈に即した適切な応答ができるかどうかを問う問題です。⑤は長文を基にした総合的な読解力を問う問題です。文法や語句に加えて、文章の流れや内容を正しく把握する力を試すねらいがあります。

【採点結果からの感想】

受験生全体の平均点は61.6点で、出題者の予想どおりでした。正答率が比較的高い設問は、①の1、2、②の2、3、5、③の3、8、9、④の5、⑤の8、12です。逆に低い設問は、①の3、5、②の1、③の1、5、6です。④と⑤に関しては、正答率が極端に低い設問はありませんでした。

誰もが正答できる基本的な問題で取りこぼしが無いようにす

ることはもちろんですが、大学での学習に最も重要な技能となる長文の読解で得点を稼げるような学習を日頃から心がけることが大切です。

【これからの学習の指針】

①と②のタイプの問題は教科書、参考書、問題集などを何度も繰り返し丁寧に学習することで、確実に得点できるようになるはずです。特に、②は頻出問題です。単語の意味からだけでは熟語の意味を推測しづらいものもあるので、熟語を含む文で覚えるようにしてください。

③のような問題は文法が深く関わります。特に、2ヶ所の空欄の内、2つ目の空欄に正答を出せるかどうか得点アップのポイントです。④のような問題は、空欄に注目するだけでなく、会話文全体に正解のヒントが含まれていますから、全体をきちんと理解することが重要です。⑤のような長文問題は、総合的英語力が試される問題です。何よりも文全体の内容を確実に把握することが重要で、普段からさまざまな英文をできる限り多く読むことを心がけておく必要があります。

国際文化学部、社会学部、経済学部、法学部、理工学部（生命科学、 応用化学、土木・都市防災コース）、建築・環境学部、人間共生学部、教育学部

国語

(P.201)

【出題の意図・ねらい】

様々な種類の現代文を通して、大学入学までに習得しておくことが望まれる国語力、すなわち文章の的確な読解力と、漢字や慣用語を中心とした基礎的語彙力を確認する問題を出題しています。㊦は、自分らしさとは何かを問いかけた『傍らにあることー老いと介護の倫理学』(池上哲司)から、㊧は、岡本太郎が現代社会における芸術の可能性について論じた『自分の中に毒を持って』から、㊨は、『異常とは何か』(小俣和一郎)からの出題でした。

【採点結果からの感想】

受験生全体の平均点は60点台の半ばで、標準的な難易度の問題と言えると思います。ここでは、比較的正答率の低かった問題を見てみましょう。

漢字の問題では、㊩問一 (b)「関心」の正答率が今ひとつでした。「感心」などの語と混同した可能性があります。他の漢字問題は概ねよくできています。言葉や文法の問題では、㊪問六の「紛う方なく」の意味を正確に知らなかったり、㊫問九で、直喩と隠喩の区別がつかなかったりした受験生が見られました。

読解問題では、的確に読解できている問題も多いのですが、㊬問三、問七、問十、㊭問八、問十一などの正答率が振るいませんでした。漠然と文意をとるのではなく、正解の選択肢と同義の表現を本文中に見つける力、そして明らかに本文には書かれていない内容を含んだ選択肢を消去していく力も身につけておかないと、入試では高得点が望めないことが多いので注意が必要です。

【これからの学習の指針】

大学入試の国語では、日頃から漢字を「見る」だけでなく、きちんと理解した上で書いたり使ったりする訓練をしているかどうか、そして、「何となく意味がとれる」という程度にとどまらず、こまめに辞書にあたって日本語を正確に使おうとしているかどうかといった姿勢が問われています。最近ではWeb上の辞書サイトも充実しているので、携帯端末にショートカットを登録し、少しでも意味が曖昧な言葉があればすぐに調べる習慣を是非つけてください。

大学入試の国語の得点力を上げるには、読書量を増やすことももちろん有効ですが、センター試験レベルの問題に数多く触れ、そこに出てきた現代文の中で意味が曖昧な言葉がないようにしておく勉強法も非常に有効です。正解の根拠を、アンダーラインを引きながら本文中に探す作業をあわせて行えば、高得点をねらえるようになるでしょう。皆さんの日々の努力が実を結ぶことを祈っています。

理工学部 (生命科学、応用化学、土木・都市防災コース)

数学 I・A

(P.209)

【出題の意図・ねらい】

理工学部においては、各専門分野の理論を理解し、それらの理論を発展させるために、しばしば数学の助けを必要とします。それらの数学は、高校で学ぶ数学を基礎として成り立っており、高校の数学の基本を身に着けていけば十分理解可能です。従って、本学の数学の試験は、高校の数学の基本をしっかり身に着けているかを見るための試験です。

【採点結果からの感想】

①から見ていきます。ここは、基本事項に関する計算問題で、すべての問題に解答できることが望まれます。

①は有理化の問題で慣れているはずですが、計算量が多かったせいか、意外と出来が悪かったです。計算練習は、普段から時間を決めて行うことが必要です。

②、③は、ほぼ8割のひとが正解していました。④は正答率5割ぐらいでしたが、これは $\sqrt{3}$ が大体どの程度の数か解らなかったのがその理由のようです。

⑤は、非常に出来が悪かったです。90°から180°の間の三角比の値についての知識が曖昧な人が多かったのでしょう。

⑥は絶対値を含んだ関数の問題ですが、丁寧に絶対値をはずしてグラフを描くことが大事です。③以下の問題の正答率

が低かったのは、その事に失敗した人が多かったからだと思います。

③は整数に関する問題ですが、②を除いて良くできていました。②は、 $(m+2)(2n-1)=6$ として m 、 n が整数であることを利用すればよいでしょう。

④は典型的な確率の問題です。①、②はよくできていました。条件付き確率、乗法定理となると理解がはっきりしない人が多かったようです。これらの事柄についてもしっかりと勉強しておきましょう。

【これからの学習の指針】

教科書を中心とした、基本的な問題を解きながら色々な事柄の意味を正確に理解するという勉強法がよいでしょう。技巧的な難問は出題されませんので、それで十分です。

特に、絶対値、2次関数、三角比、確率に関する問題は頻出されますので、それらの概念を十分理解し、基本問題について練習を積むことが大事です。

ただし、限られた時間内で解答しなければならないので、正確な計算力は磨いておく必要があります。教科書の章末に載せてある程度の問題を主として練習をつんでおいてください。

理工学部 (数理・物理コース、総合機械、自動車、ロボティクス、電気・電子、健康・スポーツ計測、情報ネット・メディア、映像クリエーション)、 建築・環境学部

数 学

(P.211)

【出題の意図・ねらい】

理工学部、建築・環境学部で学ぶ数学は高校で習う数学を基礎としています。それが身に付いているかをみることが出題の意図・ねらいです。

【採点結果からの感想】

① 小問からなる問題です。指数を含んだ形の不等式の問題、対数を用いて整数の桁数を答える問題は、典型的な問題です。3次方程式について、整式Bで割った商や余りが与えられて、整式Bを求める問題もよくできていました。与えられた三角関数の値から、倍角や半角の三角関数の値を求める問題では、半角の正答率が低めでした。座標が与えられた平面上の3点から、線分の長さや三角形の面積を求める問題では、面積の正答率が低めでした。

② 確率・統計の問題です。5または7で割り切れる数などの個数を求める問題と、1回のゲームで勝つ確率が与えられ、3ゲーム先取した方が優勝するという2人で行うゲームの問題です。問題文をよく読んで、内容を正確に読み取って下さい。

③ 数の性質についての問題です。最大公約数・最小公倍数に関する問題と、整数の基数変換を行う問題です。正答率

は低めでしたが、勉強しておけば必ず得点できる問題です。

④ 三角形の辺の長さ・ベクトルの内積・三角形の面積を問う問題と、ベクトルを他のベクトルの和で表す問題です。最後の問題は正答率が低めでした。

⑤ 数列の和を求める問題と、等比数列の問題です。よくできていました。

⑥ 三次関数の問題です。グラフとx軸との交点、微分、グラフと直線の共有点の個数、接線とグラフの共有点と基本的な内容が問われています。特に前半の部分はよくできていました。

⑦ 少し難しい関数について微分や積分を行います。関数の極値を求める問題、方程式の表す曲線についてx軸との交点や接線を求める問題、置換積分や部分積分の計算問題です。正答率は低めでした。

【これからの学習の指針】

式の計算、方程式や不等式の解法、2次関数や3次関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な性質と微分積分などが出題されます。問題は基本的なものがほとんどです。まず、教科書を中心に上記の事柄に対する理解を深めてください。与えられた時間内に解答ができるように、教科書に載っている章末問題などを反復して解いて計算力を身につけるとよいと思います。

